

～～野球の応援～～



中島 大吾



私の楽しみは、子供たちの野球の応援をすることです。

観戦していると、子供たちにあれこれと言いたくなります。しかし、私自身は、運動音痴ですし、野球のプレーを見てもアドバイスが出来るような知識も技術もありません。

そこで専門家が書いた野球の本を読んで、気になるところに付箋を貼って子供に渡してみました。子供も本を読むことで、気付きを得られたようでした。その後その本は、チームメイトに渡し、そこでも「本に書いていたことを試してみよう」との影響が出たとのこと。チームの勝利のお手伝いができるように、良い本を探してみます。

私のつづやき

～～夏の楽しみ～～



萬田 光輝



今年も夏が近づいてきました。

早くも我が家の子供たちはクワガタムシを捕まえてきました。おそらくヒラタクワガタのオスだと思います。未だにカブトムシ・クワガタムシと聞くと胸がときめきます。自分が少年時代に捕まえていたスポットは今では住宅地になっていたり、逆に密林状態で近づけなかったりと近所で捕まえられる場所は限られてきました。そんな中、去年は生まれて初めてバナナを発酵させてトラップを仕掛けました。大漁とはいきませんでしたが、それなりの釣果はありました(^o^)

今年の夏も子供たちと、ときめきたいと思います。

✿ 7～9月の税務・お知らせ ✿

- ・源泉所得税の特例納付 … 7月10日
- ・労働保険の申告・納付 … 7月10日
- ・社会保険の算定基礎届 … 7月10日

7月は提出物、納付がたくさんあります。お忘れなく！



お休みカレンダー

2017年 7月							2017年 8月							2017年 9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1			1	2	3	4	5						1	2
2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9
9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16
16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23
23 30	24 31	25	26	27	28	29	27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30

わたしたちは、たくさんの“ありがとう”を集め、日本の中小企業を元気にします！

※ 過去のニューズレター「かけはし」は、弊社ホームページからご覧頂けます。

かけはし

Vol. 33

夏号

2017年7月



撮影：益田水郷祭



事務所にも夏の花が届きました(^_^)v



とても大きなあじさいですね(^_^)



ビジネスプラン / あんの会計

〒698-0041 島根県益田市高津一丁目1番1号
TEL(0856)23-6116 FAX(0856)23-6674
E-mail bplan@sx.miracle.ne.jp
HP <http://annokaikei.com>



代表取締役
安野 広明

こんにちは、安野広明です。いつもニュースレター「かけはし」をお読み下さり、ありがとうございます！
同封のチラシにもございますように、9月15日（金）には、毎年恒例のビジネスプラン特別講演会を開催いたします。今年のゲスト講師は海洋冒険家の白石康次郎氏。同氏は、テレビ朝日系列の「報道ステーション」や「NHKBS1スペシャル」で特集されましたので、ご覧になった方もあるかもしれません。ヨットレース単独無寄港で世界一周という壮絶な体験をされてきた白石氏が、襲いかかる困難の中で何を考え、どんな行動をとり、どうやって突破されて来たのか。活躍の場が異なるとはいえ、きっとわれわれの仕事や人生にも役立つ学びがたくさんあると思います。

そして、なんと今回は、6月に「次世代リーダーの会」主催の講演会で講師をおつとめいただいた、上田情報ビジネス専門学校の比田井和孝氏にも、特別出演していただくことに決まりました！比田井氏は以前より白石氏を応援されており、「白石氏の魅力を引き出すためなら」ということで、急きょ登壇下さることになりました。ちなみに比田井氏は、講演実績20万人を超える、有名講師でもあります。この有名な二大講師のコラボ講演を、益田で聞ける機会なんて、滅多にございません。主催する私が言うのも何ですが、激レアの講演会です（笑）。ぜひ、お誘いあわせの上、ご参加下さいませ！なお、チケットには限りがございますので、早目にご購入されることをおすすめします。

「学びの質と量は、“受け手”の姿勢で決まる」



元上智大学名誉教授の故渡部昇一氏は、高校時代、英語を担当していた恩師のご自宅に同級生と数名で遊びに行った際、その先生が書斎にゆったり腰を掛けながら色々なお話をされている姿にしばれ、「こういう老人になりたい！」と強く思ったそうです。
そして、その瞬間、「一生の目的が定まった」と、（過去を振り返りながら）おっしゃっています。

ただ、不思議なことに、他の同級生は誰1人としてしばれなかったどころか、後年同窓会で集まると、「そういえばそんな先生もいたな〜」という人が大半なのだとか。同じ先生に学びながら、まったく影響を受けない者もいれば、（渡部氏のように）揺るぎない影響を受けたものもいる訳です。

このことから、渡部氏は、「受け手の求める心や感性の如何によって、そこから学び取れる質と量は天と地ほどの差になる」という教訓を導き出しているといえます・・（『月刊致知』2017年6月号を参照）

例えば、講演会や勉強会や研修などに参加した際、それが仮に強制的に参加させられた、もしくはお付き合いで参加せざるを得なかったものであったとしても、「どうせ1時間過ごすのなら、何かを学び取って帰ろう」という姿勢で臨むのか、それとも、「面倒くさいな〜、早く帰りたいな〜」と思いながら漫然と過ごすのでは、そこから学び取れる質と量はまったく異なります。

そして、それが1度や2度ならまだしも、いつまで経っても姿勢が変わらないとすれば、両者の差は歴然としたものになるでしょう。それこそ学びを求める姿勢で聞いている人は、「一生の目的が定まる」ような「言葉」や「人」との出会いが待っているかもしれません。
どちらの人生を選ぶのもその人次第ではありますが、チャンスは平等に与えられているはずです。

さらに言うと、講演会等の特別な場合のみならず、「日常の中で人の話を聞く姿勢」についても同じ。
ただ漫然と「あの人（＝社長！）はいつも同じことばかり言っとるな〜」と聞き流すのか、「しっかり自分の中に落とし込もう」という姿勢で聞くのか、こういった「微差」の積み重ねが、やがては「絶対差」になるのです。

もちろん「話し手」がどういう人なのか？然るべき実力を有した人か？も大事な要素だとは思いますが、それ以上に、「受け手」の求める心や感性の方が重要であり、むしろその姿勢さえ備わっていれば、どんなことでも学びに変えられると思っています。

平成29年4月11日（火）に
『経営戦略セミナー』を開催致しました。

講師の
栢野 克己 先生

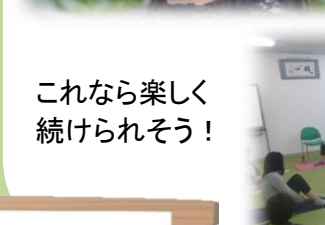


中小零細企業は
ランチェスター
経営です！

平成29年5月18日（木）に
『ピラティス体操セミナー』を開催致しました。



講師の
田中 美礼 先生



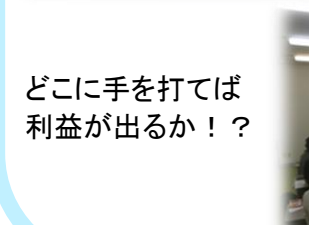
これなら楽しく
続けられそう！

セミナー紹介

平成29年5月26日（金）に
『未来会計セミナー』を開催致しました。

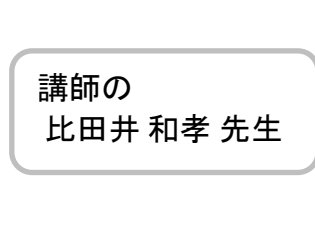


講師の
安野 広明



どこに手を打てば
利益が出るか！？

平成29年6月9日（金）に
『NextMASUDAともしびプロジェクト
何のために働くのか』を開催致しました。



講師の
比田井 和孝 先生



150人が参加。
熱血の
ご講演でした！

今月の本の紹介



『繁栄の法則』

著者：北川 八郎

北川八郎氏について知ったのは、人間学を学ぶ月刊誌「致知」での対談でした。とても気になった方でしたので本を読んでみました。繁栄の法則には、生き方のルールが5つあります。

1、「肯定的に生きる」 2、「与えることと感謝」 3、「拡大させることより充実させること」 4、「利より真を選ぶこと」 5、「自己犠牲と徳のレンガを積む」
いろいろなルールの中で感じたことは、「穏やかなこころ」を持ち続けていくことで全てが良き方向に進むということです。ストレスの少ない社会の生き方を学ぶには大変素晴らしい本かと思います。素直な気持ちでまずは受け入れる事から始めてみたいものです。

濱崎 俊明



「選択すること」は、“選ばなかった未来を捨てること”でもある」



「もしもあの時、別の選択をしていたらどうなっていただろう」と考えることは、誰にでもあると思います。

ちなみに、私にとって最も印象深い「あの時」は、平成20年10月、東京から益田へのUターンを決めた時のこと。緊急事態だったこともあり、冷静に判断する余裕が無かったというのが正直なところですが、いまでは当時の選択をまったく後悔していません。ただ、決断するということは、選ばなかったすべての未来を捨てるということでもありますので、もしもあのまま東京で働いていたら自分はいま何をやっているのだろう・・・と思ったりはします。

それと同時に、最近感じるのは、上記のような大きな選択もそうですが、地味で目立たない日常的な選択や意思決定もまた、長い目で見れば人生に多大な影響を与えるのではないかということ。

例えば、

- ▼ 朝、目が覚めた後、二度寝をするかしないか
- ▼ 仕事で気がかりなことを、先延ばしにするかしないか
- ▼ 仕事が終わって、とりあえず1杯やるかやらないか
- ▼ 家に帰ってテレビをつけるかつけないか
- ▼ 寝るまでに、本を読むのか読まないか などなど。

些細なことかもしれませんが、1つ1つについて別の選択をすれば、異なる未来が待っていることは事実です。

無限にある選択肢も、選択や意思決定した瞬間から、1つの未来だけが現実化する。人生とは、そういった選択の繰り返しののだと思います。

そのように考えると、「いつもやっているから・・・」とか「みんなもやっているから・・・」などという惰性的な理由でなんとなく選択したり、意思決定するというのは、いかがなものでしょうか。

「自分の選択は、選ばなかったすべての未来を捨てている」
という感覚を持ち、後悔しない選択を心がけたいものです。

「自分の機嫌は、自分で選択できる」



上記の記事と少々関連しますが、わたしたちが普段、何気なくとっている行動は、無意識のようで、実際には、(0.001秒くらいかけて?)自ら選んでいる行動なのだそうです。

例えば、「機嫌よく振る舞えるかどうか」なんていうのも、その1つ。

人の機嫌(=感情)は、自らの行動の影響を受けますので、ため息をついたり、不平不満をこぼしたりという行動を選択すれば、自らの不機嫌は増幅するはずです。

もちろん、それぞれに不機嫌になったきっかけや原因があるとは思いますが、その感情を一時的に終わらせるのか、持続させるのかは、その人自身が選んでいることになります。

言うなれば、自分次第で、「不機嫌な人」と「上機嫌な人」のどちらでも選択できるということ。

少し話が派生しますが、この点について、『幸福の習慣』という本の中に興味深いデータが紹介されていました。ハーバード大学の社会的実験によると、「日々接している家族や友人が幸せを感じていると、幸せを感じる可能性が15%高まる」のだそうです。

しかもその影響は、本人が直接知らない人にも伝染していくのだとか。

具体的には、

- ▼ あなたが幸せを感じていると、あなたのパートナーは15%幸せが増す
- ▼ その結果、あなたのパートナーが会社で関わる部下は、10%幸せが増す
- ▼ さらにその部下が家に帰って関わる家族は、6%幸せが増す

とのこと。

つまり、自分が機嫌よく(幸せに)暮らしているだけで、波及的に、少なくとも3人先の人にまで、良い影響を与えられるのです。

このデータを信じるならば、誰かを幸せにしようとか誰かの役に立とうなどと意気込むよりも前に、自らが機嫌よく過ごすことや、そのための行動を優先した方が、周囲に貢献できるのかもしれないですね。

私はまだまだできていませんが(汗)、自らの上機嫌を、選択できるようになりたいものです。



<安野からのおすすめコーナー>

*このコーナーでは、私が独断と偏見により選んだ、おすすめの本や映画等を紹介いたします。何かの参考にしていただけると幸いです！

▶▶ 漫画「この世界の片隅に 上・中・下巻」(こうの史代 著)

昭和19年(1944)に広島市から呉市へと嫁いだ18歳の女性すずの姿をとおして、戦時下にあった市井の人々の暮らしが描かれています。戦争という容赦のない暗雲の中、すずは、ただひたすら日々を誠実に生きていく。その姿に、心が揺さぶられます。柔らかくて優しいタッチの絵も素敵です。ちなみに昨年、映画化されました。

▶▶ ビジネス書「精神筋力～困難を突破し、たくましさ育てる」(白石康次郎 著)

9月15日の弊社講演会でご登壇いただく白石氏のご著書です。「海のパリダカ」をはじめ、外国人の中で激しいレースを果敢に戦い、「単独無寄港世界一周」を3度実現している同氏。海洋冒険家として幾多の困難を乗り越えてきた同氏が、海の上だけでなく、世間の荒波の中でどうしたら生き残れるかの判断力、己に打ち勝つ精神筋力の鍛え方を平易な言葉で語っていらっしゃいます。この本を読めば、生のお話しが聞きたくなること間違いなしです！(笑)

▶▶ ビジネス書「私が一番受けたいココロの授業」(比田井和孝 比田井美恵 著)

同じく、9月15日の弊社講演会でご登壇いただく比田井氏のご著書です。比田井氏が上田情報ビジネス専門学校で行う授業のテーマは、「人として大切なこと」。真剣に学生の幸せを願い、生きた言葉で語る比田井氏の情熱に、読んだ私も感動しました。「働くことの本当の意味」と「心のあり方」が分かる、心震える語りがここにある。シリーズ累計28万部の超ベストセラーです！

▶▶ DVD「とんび 1～10話」

重松清の小説『とんび』が原作の、連続テレビドラマ(2013年放映)。ひたすら我が子の幸せだけを願いながら、愛とゲンコツで息子を育てあげ賢明に生きる、日本一バカで愛すべき父・ヤスと息子・アキラの物語です。どうしようもなく不器用だけれども、誰よりも愛情深い父親の姿に、泣けます！

